

産婦人科

診療業務を再開!

最近、産婦人科医の不足により、各地の総合病院で業務縮小を余儀なくされていることは、テレビ等で皆さんもご存じのことと思います。そんななか、当院では3月まで業務を縮小していた産婦人科診療業務を4月1日から再開し、4月中に、すでに10人の赤ちゃんが当院で誕生しています。



インフォームドコンセントを第一に

患者さまおよび職員のみなさまに

は、長い間ご迷惑をおかけしてまいりましたが、4月より鈴木一有と加藤誠の二人が着任し、産婦人科診療を再開いたしました。現在、二人で外来・病棟・分娩・手術・検診の業務を行っています。毎週金曜日の午前中は浜松医科大学の金山教授に外来診療に来ていただいております。産婦人科全般についてアドバイスもいただいております。まだ着任してから間もないですが、他科の先生方が非常

親切で、相談にも気軽に応じていただき助かっています。

最近、産婦人科医不足が話題となっていますが、当院においては人手不足は産婦人科に限ったものではなく、すべての科の先生方が限られた人数で診療にあたっておられます。外来・病棟手術室の看護師さんとも連携がうまくとれスムーズに診療を開始できました。

二人とも掛川ははじめての土地でもあり着任前には不安でしたが、皆

今回は、産婦人科の鈴木一有先生にお話を伺いました。



鈴木一有先生



加藤 誠先生

様にあたたく迎えていただき、今後は全力で診療にあたりたいと考えています。

まだ開始したばかりですが、診療においてはインフォームドコンセントを第一に考えていきたいと思えます。たとえば、手術適応のある子宮筋腫の患者さんが一人いたとしても、同じ子宮筋腫を持つているとしても、その患者さんの環境はそれぞれ

初産婦さん? 経産婦さん?

さて話題は変わりますが、このころ少子化がすすみ一人の女性が出産する子供の数が一人または二人ということが圧倒的になってきました。このことにより、分娩全体の

中で初産の占める割合が以前に比べ多くなってきました。おおざっぱには、半分以上の分娩が初産ということになります。

分娩進行に最も影響する因子はなんといっても、以前に経膈分娩をし

れ異なっています。

未婚あるいは既婚であるかはもちろん、今後妊娠の希望があるか否か、子供さんや仕事の都合で長期には入院できないなどいろいろな事情をそれぞれ抱えています。そういったことを丁寧聞きながら治療方針を決めていくつもりです。



たことがあるかどうかです。妊娠中の様々な合併症の発症率は初産婦さんでも経産婦さんでも大きくは変わりませんが、分娩進行は経産婦さんの方が一般的にはすみやかです。(もちろん例外は多々ありますが)

我々産婦人科医にとって、分娩を管理していく上で最も大切な妊婦さんの情報は、その方が初産婦さんか経産婦さんかなのです。

